99.11『Diving tour in ＧＢＲ』

0．はじめに

これから書くＧＢＲツアーレポートは、99年11月21日～25日にVermilionメンバーの岡安勉、加藤一行、芦谷和男＋現地集合のタイ航空スッチーこと渋谷美保を加えた４名がオーストラリアにダイビンク旅行に行ったことについて、私岡安勉が書き記すものであり余り本など読んだことのない私が書きますので、レポートと言いつつ日記になるのかエッセイなのか小説なのか、書いている自分も良く分かりませんが、私がオーストラリアに行って見て聞いて感じたことを、ノンフィクションにて書こうと思います。

正直言ってもう年末でなにかと忙しいのに、なんで旅行に行く前にＨＰ上で帰ってきたらレポートを書きますなんて宣言してしまったのか少々後悔していますがここは公約？どうりなんとか書き上げたいと思います。ですので、この際誤字脱字、文法がおかしい、おもしろくない等あとでメールでつっこまないでください。

よろしく！

1．出　発

朝ひさびさに気持ち良く目が覚めた。カーテンを開けると空は真っ青である。これが11月なかばの天気と思えぬほどの、とても暖かな日曜日である。

待ちに待った出発の日 であるのに、何故かとってもクールな自分に気づく。

海外旅行もこれが６度目それもここ２年のうちにである。

変に慣れてきたせいかそれとも少々大人になったのか？こんな気持ちは子供心でいたいのにと俺は思う。

飛行機は午後８時15分と、とってもゆっくり。

午前中残った仕事をちょいと片づけて、車を洗車した。汗をたっぷりとかいた。

シャワーを浴びて昼飯を食べに行った。

ソースかつ丼セットとビールを注文した。セットにはソースかつ丼とサラダ、キムチ、茶碗蒸、本当に半ラーメンかと思うほどのラーメンであった。それに大ビンのビール、食いすぎである。

ほろ酔い気分で家に帰ると、そこに加藤君到着。

ふたりで芦谷を迎えに行き、午後２時ツアーはスタートした。

時間があるのと経費節約のため、高速道路は使わず国道をのんびりと走る。

ぽかぽか陽気の中、マイルチャンピオンシップ（競馬）などを車内では予想しつつ順調に走り、予定どうりＵＦＯパーキングにたどり着いた。ここは今回 インターネットにて予約 したもので、私の知る限り一番安い（一日あたり500円）駐車場である。

２．成田空港にて

夕方６時少し前空港に着いた。 まずはチェックインカウンターにて受付をする。

係りのお姉さんに名前を告げると、 “本日オーバーブッキングでして…”

どっひゃーん。行けないのー？！ と一瞬思ったものの、３人分のシートがまとめて取れないだけ、と言うことでひと安心。

係りのお姉さんは、飛行機に搭乗したらスチュワーデスさんに調整してもらってくださいと、付け加えてくれた。 チケットは芦谷だけ別席で13列も後ろである。 まあしょうがないでしよー、なんせ今回芦谷は最初行かないと言っていたのに、“現地集合でタイのスッチーも来るよ！” と言ったら、“やっぱり俺もいこうかなあ～” なんてぎりぎりになって言い出し、チケットはキャンセル待ちで手に入れたものである。

航空券をもらってバックを預けたら、次は両替である。

両替所は長蛇の列ができていた。

それを見ただけでその最後尾に並ぶ気にもならず、レートの確認だけをして、出国ゲートを通過してから両替をすることにした。

中の両替所はさすが空いていた。

そしたら中の方がオーストラリア＄は１円程レートが良かった。米＄は外の方がいくらか 良かった。

今まではどこでも（成田空港内）は同じだと思っていたが、こんなとこに金融 の自由化が少しは現われたのかなぁ～と…

でもって、とりあえずA $500分のT/Cに交換する。(T/CA $500＝￥35,597　よってT/CA＄１＝71.2手数料込み）Ａ＄１の現金は79.5円とレートが良くないため、交換はしない…

次は免税店である。

買うものは決まってタバコである。

今､日本では１カートン2,500円する ものがここでは1,500円で買える。これは大変お買い得である。

そして出発までの残り時間、これも決まってレストラン フードコートにはいる。

チェックインカウンターに10% offの割引券が置いてあったりするので要チェック 、今回はなかった。

生ビールを一杯とつまみ、時間までのんびりと味わって飲む。

出国ゲートを 通過したら一応外国？だからこそ免税店もありタバコも安く買える。

なのに600円のビール は高いと思う。

それに消費税まで取られるのはなぜ？なんかおかしいと思うのは私だけでしょうか？

３．機内にて

最終案内のアナウンスを聞いて機内に乗り込む。

その前に最後の一服、これから先７時間もの長旅、たばこは吸えないのである。

チケット番号を見ながら席をさがすと、加藤君と私の席は３列シートの真ん中と窓側であり通路側にはオージー風の女性がすでに席に着いていた。

俺は“おっ、これは良いかも！”とすかさず思った。

７時間退屈しのぎにオージーの女の子と話ができる、って訳でなく、芦谷のチケットは窓際だったしきっと席を替わってもらえると直感したのである。

早速スチュワーデスを通じて彼女に席を替わってもらえるよう交渉したのであるが、彼女曰く、私は通路側じゃあなきゃいやなの…

スチュワーデスはそれを私達に 伝えるとそれ以上の事は何もしてくれず、私達は結局別々にすわる事となった。

今回の席は随分前の方で、エコノミー席では前から３番目、すぐ前にはビジネスクラスの席がみえる。

離陸してすぐにオレンジジュースが配られた。 飲みおわった頃には夕食が配り始まった。

これまでの席は一番後ろの方もしくは羽の上なんてのが多かったものの今回はGood、食事が配られ始めてもかなりの時間たたないと自分の席にまでたどり 着かないなんてことはなく、今後は極力シートは前の方を選ぼうと思った。

スッチーがシーフードかビーフか？と聞いてきた。私はなぜかいつもビーフを選ぶ。どちらを選んでもその皿には大概ごはんものっかっていて、なのにトレーには 必ずパンがつくのはなぜかなぁ～？。

お飲み物はと聞かれて、とりあえずビールと答えるが、ワゴンの上にまだ詮の開い てないシャンパンを見逃さなかった。 エコノミーでシャンパンが飲めるなんて、ちよっとリッチな気分にさせてくれた。 食後にはコーヒーでしょう。その後、ビール数本とワイン数杯を飲んだのは言うまでもありません。

そうだ忘れてましたけど機内ではアイマスクに、歯ブラシ、それとかかとのない靴下（フリーサイズ機内用？）が食前？に全員に配られました。

入国カードが配られた。見ると日本語で書いてあるじゃあないですか…親切！これなら簡単と、さっさっさーと書いてしまう。

ほろよい気分でうとうとしてると、飛行機はすでに着陸準備に入っていた。

７時間なんて気がつけばあっと言う間だ。

窓から外を見るとまだ薄暗くけっこうな勢いで雨が降っていた。

それを見てるとなんかいやな予感がすると共に俺の心の中にも雨が降りだしそうになった。

４．ケアンズ空港にて

朝４時半（時差は日本＋１時間＝日本は３時半）定刻どおりケアンズ空港に着陸した。
インターネットで見てきた天気予報どうりの雨であった。
飛行機から降りるのも早い！やっぱ前の方の席はGoodと思う。

入国審査には、ビザが必要であり、ＥＴＡＳと呼ばれる電子ビザを取得するのに￥1,575かかる。
でもそんなの全然見る様子もなく、単にオーストラリアの金儲けかと思ってしまう。
お金で思い出したが空港使用税だか、なんだかも￥4,500（旅行会社前払い）と冷静に考えると高い気がする。

入国カードは書いてあった為すんなりと通った。
が荷物が出てくるまで30分程かかった。
その間に一時凌ぎのための現金を両替する。
成田にて両替したT/C $100分を現金にすると＄96であった。
（T/C １枚あたり ＄２の手数料？）
ちなみにここでは￥10,000＝$128.3とあまりレートは良くない。
ちょっと見ずらいが、紙幣は紙でなく、プラスティクで、できている。透けてるのがわかるかなぁ～。

次は通関申告ゲートがあるのだが、ここでは主に食品の持ち込みのチエックを受ける。
申告せずここを通過しょうもんなら、見つかった時$100の罰金である。
私はこの通関申告を経験したいがために日本より柿の種を持ち込んだ。これはもちろん大丈夫とわかってててのこと。
申告の方のゲートに行くと、入り口で何やら質問を受けたが、何を言っているのかさっぱり分からずにいると、あちらに行けと、キャッシャー付き検査ラインを指差した。
“げっ！いきなりばっ罰金?!!”と思いつつも、おかしの袋を見せながらか、This onlyを連発して無事通過 できた。
結局空港を出るまでに１時間弱もかかった。

とりあえず、空港の外へと出て約10時間ぶりの一腹…（空港建物内では吸えない）おもいきり吸い込んだ、あっ一落ち着いたぁー！と思ったのもつかの間、頭も体もクラクラふらふら…
この時たばこは体によくないぞ？とあらためて気づきながらも吸い続けたが、１本丸々吸うことはできなかった。
フロアーに戻るとお迎えが来ていて、早速バスに乗り込む。
マイクロバス（トヨタ　コースター）の後ろには荷物を乗せるためのトレーラーがついていた。 かっきてきー！！と思うのは、私だけでしょうか？

5．ケアンズの街～

バスはケアンズの街へと走り始めた。
ドライバー兼ガイド役の女性運転手が、ハンズフリーマイクを使って案内する。
ケアンズはそれほど大きな街でなく、街中を１周するのに30分とかからなかった。
日本と違って道路もその側道も、かなりゆったりと造られている。
信号機もほとんど無く交差点は、ロータリー式となっていた。
緑も多くとても広々としていて、時間も空間もゆっくりのんびり、感じられた。
１周しながら案内が終ると、乗客は各々のホテルにて下車した。

泊ったホテル

ホテルには日本人の現地添乗員がすでに待機しており、ホテルの説明オプショナルツアーの案内などをさらりとしてくれ、私達の部屋まで案内してくれると帰った。
ホテルは３流ではあるものの、とてもこぎれいであり7階建てで眼下にはプール、ジャグジーが見え、正面には海が見えなかった。２階だし…
それでも今までの私達の泊ったところから思うとかなり良い。
エアコン、テレビも冷蔵庫もそれにドライヤー、シャンプーセットもある、シャワーはちゃんとお湯もでるし…（今までどんなところに泊ってんだい！なんて言われそー）

思えば家を出てからすでに15～６時間が経ち、少々疲れた。 だがゆっくりもしていられない。
時計は６時半をすでに回っていた。
１時間後には１泊２日のダイビングツアーの為に、ショップが迎えに来る事になっている。
すぐさまツアーの準備をして朝食の買い出しだ。
地図を片手に街に出る。
朝早い為、まだ商店はほとんど閉まっていた。
ガソリンスタンドの片隅にちっちゃなコンビニを見つけ､ハンバーガー（$3.5）とコーヒー（$2.5）それに船の上で食べるスナック菓子を買った。
ホテルに戻りちっちゃなテーブルに男３人が向かい合い、オーストラリア初の食事となる。
特に美味しいわけでもなかったが、空腹の私達の胃を満たしてくれるには充分であった。

そろそろ出発10分前ロビーに降りて、ダイビングショップの迎えを待つことにした。
それと現地集合の美保ちゃんもここに来る事となっている。

６．ピックアップ

ロビーにて、迎えと美保ちゃんが来るのを待つこと数分、まず迎えのマイクロバスか到着した。
バスには外人さんばかり20人近くが乗っていた。
運転席よりすら～っとしたオージーのイントラが出てきた。
挨拶を交わすとスピーディーに私達のヘビー級の荷物を車に乗せ、“Let's go!”（さあ行こう！）とさわやかな笑顔で言った。
“Little stop! Last1 person not come!!... little wait（ちょっとまってくれ！ あと１人来てないんだ!!）とドライバーを待たせ、道路反対側にある美保ちゃんが泊っているはずのホテルまで急いで走った。
息を切らしながらフロントのおばさんに“This Hotel staied Miss Miho Shibuya calling me. . .”（ここに美保ちゃんが泊ってると思うけど呼んでくれ）
おばさんは“No staied!”
“Realy? Japanese girl Miss Miho Shibuya yesterday check in. . from sydney. . visit . . meeting . . . . . .”
本当に居ないの？めちゃくちゃにありったけの単語をならべて見たものの 突然の日本人の襲撃におばさんはNo! ～ と首を横に振るばかり. . .
どうやら居ないようだった、急いでバスに戻る。

ドライバーは急いでいる様子で不機嫌な顔を隠しつつ、車を走らせた。
先客の外人さんも何がおきたのかわからず、待たされてむっとした様子に肩身は狭かった。
数分でdown under DIVE（ダイビングショップ）へ到着した。
一度ここでバスを降りてツアー費の支払いである。
ツアー費は、１人１泊２日４食事付き６DIVEで$240である。
インターネットにて予約予約してあり残金の支払いをする。
それにしても美保ちゃんの事が気にかかる。
店内に日本人スタッフを見つけ、そのことを告げてみたもののショップには何の連絡もないとのこと。何もなければ良いのだけれどと不安はよぎりつつ、旅行会社等調べて何か分かったら連絡下さい、とお願いしバスに乗った。
再びバスは走りだし、マーリンマリーナに着いた。

7．出港

マーリンマリーナはピア・マーケットプレイス（ケアンズに行くと誰もが訪れると言われる？位有名なショッピングセンター）の裏手にあり、と言うよりマリーナの横にそれが出来たのだとと思う...マリーナには大小たくさんのヨットやクルーザーそれに水上セスナ機などが停泊しており、なかなかみごとである。

その中にこれから私達が乗るスクーバルー号があった。

この船は名前でも分かるとおりダイビング専用船であり、思ってたのよりでかい

（全長16m、定員50名）。

すでに他の客はほぼ乗船しており早速乗り込むと、スタッフも含め40数名位は乗船していた。

で、日本人は私達３名＋20歳そこそこのカップルの計５名であった。

重苦しい雲と雨が降ったりやんだりの天気の中、船は走り出した。

私の心はうきうき気分になりきれない... 美保ちゃんの事も少々気にかかった。

女性イントラによる説明が始まった。

もちろん、英語。乗客達は、それを見聞きし、笑いあり拍手ありと延々説明は続いたものの、私達には何を言ってるのかさっぱりわからず、乗客達に合わせ笑みを浮かべたり、拍手したりするのが精一杯であった。多分、これからの日程や船の説明、クルーの紹介、などを楽しく説明してるのだろうけれど...

先程のカップルに、英語がわかるか聞いてみたところ、やはり全然わからないと...

きっと一通り説明が終わった後で、日本語でも説明があるのかと思ったものの、それは期待外れに終わり、なんとかなるだろうと、開き直るしかなかった。

それより私にとって気になったのは、たばこが吸えるかどうかと言うことであったが、たばこは船の後方オープンデッキが喫煙場所となっていて、いくらでも吸えた。

ソファーに腰掛けたまま、うとうと一時間位寝てしまった。

船の中がばたばたとした慌ただしさに、目を覚ました。

客の半分くらいの人達が潜る準備をしている。

えっ～！俺達どうすんのー？潜るんだよねー潜りに来たんだから...？

隣に座っていたオージー女の子に、しどろもどろに聞いてみたが通じない。

どーしたらよいのかも解らず、何もできずミコマスケイ（ダイビングポイント）に着いた。

8．ミコマスケイ

外人さん達は器材を背負うと次々に船から下り潜りだした。

私はそれを見てる事しかできず、最後のダイバーを見送った頃、船に残った半分の人達が何やら着替えが始まった。

そうか！俺達は第二陣で潜るんだきっと…　と思い慌ててウエットスーツに着替えていると、外人のおじさん達は３点セット（マスク、フィン、シュノーケル）だけを持ち海に入って行った。

どうやら第二陣はスキンダイビングらしい…

そう言えばダイビングの日程表にそんな事書いてあったのを今になって思い出した。

やっと自分のすることが理解でき、私も３点セットを持ってＧＢＲの海に飛び込んだ。

入ってすぐに、大きめのツバメウオとアジが私を出迎えてくれた。

思ったよりも透明度は良く15m位はあったと思う。これで天気が良ければと悔やまれる。

私は他の二人の事などすっかり忘れ、リーフずたいに泳ぎ、大物はいないかと、ドロップオフを散策した。とくに何も見当たらなかった。

リーフ内の２～３ｍの浅瀬は枝サンゴがびっしりと見事であった。

いたぁー！ナポレオンだぁー…　50ｃｍ位ではあったもののＧＢＲ初大物…

追いかけたものの逃げ足はとても速かった。

30分ほどでボートに上がった。

ＧＢＲ初ダイブ（スキン）はまあまあであった。

これからのダイビングに少々期待は高まった。

船は再び走り出した。

船内ではコーヒーカップをもち何やらお菓子を食べている人々が現われた。

船内前方にそれらしき物が置いてあった。

俺達も食っていいの？

聞いたってどうせまた通じないだろうし、よし！くってしまえと…

インスタントコーヒーを自分で作ってクラッカーに大きめのチーズをのせて食べた。

Oh.　Good!…　でも、これってランチじゃあないんだろーねー…

9．乗船

アトランテッククリッパー号が見えてきた。

パンフレットを見ると、このアトランテッククリッパー号は全長約42m44名の客と12名のクルーが宿泊できる世界最大級のダイビング専用セイリングシップで船上にはダイバー専用デッキ、ジャグジー（スパ）があり、船内には快適大型ラウンジ、ドリンクカクテルバー、宿泊室（全室エアコン完備)、食事は資格あるシェフが作るとの事である。

この船は、今回のツアーで、もう一艘DeepSeaDiversDen社のシークエスト号と、どちらにするか最後の最後まで悩み、船上にジャグジーがあると言う事だけで決めたそれである。

結構でかいと思っていたスクーバルー号がクリッパー号に横付けされると、さらに倍以上ある。

流石オーバーナイトクルージング船である。

サイドデッキより乗船してメインデッキへ上がっていくと、“こんにちわー！”

その言葉が耳に入ったとたんに私はほっとして、体中が軽くなった様に思え、その声のする方を見ると、若き頃の仲村トオル似のとてもやさしそうな人であった。

きっと俺も、岡ひろみがお蝶婦人（古いー！）を見るようなまなざしで満面の笑みを浮かべてたに違いない。(写真を見る限りでは、仲村トオルと言うより高島政伸？)

なんか、楽しめる様な気がしてきた。

まず、自分達の泊る部屋に案内され荷物を運んだ。

荷物を置くと歩くスペースがない！

３畳位の部屋に２段ベットが２つＬ字にあり４人部屋である。

そこに私達３人と、先住の外人さんと相部屋である。

トイレとシャワーはあったものの隣の部屋と共用で、左右に入り口があった。

ちなみにシャワーは１人１日１回３分位との事。

荷物を置くと、食堂にてすぐにランチとなった。

食べ終わるとそこで、ブリーフィングが始まった。

ガイドは先ほどの日本人で通称トニーの説明である。

客は私達３名とカップルの５名の日本人のみである。

一緒の船で来ていた外人さん達は別の人が担当らしい...

今度は聞き取れるぞ...　日本語だし当たり前だぁー ...

今回この船の日本人スタッフはトニー１人であり、大変お世話になったのは言うまでも無い。

10. サクソンリーフでのDiving

１本目　in　14:33　out　15:21　潜水時間48分
最大深度15.9m　透明度15m　気温28℃　水面27℃　水底27℃　曇り
２本目　in　16:12　out　16:22　潜水時間10分
最大深度14.1m　透明度８m　気温28℃　水面27℃　水底27℃　曇り
３本目　in　16:51　out　17:22　潜水時間31分
最大深度13.2m　透明度８m　気温29℃　水面27℃　水底27℃　曇り

１本目は海外に行くとおなじみチェックダイブである。ガイドにはトニーが付いてくれた。
エントリーはデツキから長い階段を水面まで降りてき、そこから、ジャイアントストライドで海に降りる。皆がそろった所で、潜行したが、ガイドとカップルの彼氏が降りてこなくて...
結局彼氏は、耳が抜けず１本目はキャンセルとなる。
後で聞くと彼氏は１年ほど前にＯＷを取って以来潜ってなくて、今回が初ファンダイブであって...　緊張、不安etc..　の為であろうか..？で、彼女の方もまだ10数本だと言う...
２本目からは、基本的にガイドはつかない。
ガイドによるブリーフイングをしっかりした後、好きなように勝手に潜って下さいって感じで...
潜る前にスタッフに名前を言ってからエントリーするのと、エキジット後、再び名前、残圧（50残す)、深度、潜水時間を告げる事となっている。
そう言った訳で、本数の一番多い私が、カイド役となり潜ることとなった。
カップルに“一緒に潜って下さい”との事で、初心者を見捨てることも出来ず、２本目は５名で潜ることとなった。ただ”ダイビングは自己管理だからね..　絶対無理だけはしないでね...”と私の口癖を加えて言った。
１本目と同じく、バディチェックをしてからスタッフに名前を言ってエントリーした。
水面で集合して潜行であるが、彼がちゃんと耳が抜けるか心配であった。
でも、私以上にバディの彼女は彼を気遣い、今回は難なく耳も抜け、リーフに向かって徐々に潜行していった。
潜行して５分位してか、私の左目後方で、何か動く物を感じ振り替えると、彼女が急浮上始めた。近くにいた芦谷に追いかけろと指示しつつ、俺は彼の元に近づき、彼を落ち着かせながら、浮上していった２人を見届けていた。
が、２人の姿が見えなくなり、加藤君とともに私達も浮上した。
水面にて見回したが、２人の姿はなく、船に戻ったのだろう？と私達も船に上がった。
さすがに２人がデッキにいた時は、ほっ！とした。彼女も元気そうで何よりであった。
聞くと、エアーの出が悪くなり浮上したとかで、１本潜った後タンクを交換しなかったのが、原因である。
彼女は彼氏を気遣いしすぎて、自分の事（タンク交換）を忘れていたらしい...
バディチェックOK って言ったのに...
と言った訳で、２本目はわずか10分の潜水時間で終了...
実はこれが私にとって記念すべく200本目のダイビングである。

ほんと何事もなくて、私にも彼女にも記憶に残るダイビングの１本となったに違いない…。

でもって、これで終了じゃあ悲しいーので、もう１本潜らせろとスタッフに言って３本目となる。
３本目、今度はと皆気合を入れ、しっかりチェックもしてエントリーした。
１本目とは違って随分透明度も落ちている。
こんな中、先頭でなんか行きたくないものである。
やっぱガイドの後ろにいてちょこちょこと好き勝手してる方が、気は楽だし、楽しいしけどまあ仕方ない…
リーフに向かって徐々に潜り、リーフにあたると、リーフ沿いを潜った。
リーフは結構入り組んでいて、珊瑚もきれいでなかなか面白かった。
それと、31分と少々短めのダイビングではあったが、無事終わって良かったーと…

サクソンリーフで見られた魚達

ナポレオン、ヤッコエイ 、コブシメ、マハタ、アオメハタ、ニジハタ、ブダイ、イロブダイ、キッネブダイ、バラフェダイ、ニジハギ、ニセカンランハギ、アイゴ、ヒメアイゴ、アカマツカサ、クマノミ、ハナビラクマノミ、ミツボシクロスズメダイ、ネッタイスズメダイ、ミスジリュウキュウスズメダイ、ロクセンスズメダイｏｒオヤビッチャ、ツノハタタテ、ミスジチョウチョウウオ、セグロチョウチョウウオ、ニセフウライチョウチョウウオ、ウメイロモドキ、クギベラ、ヨスジフエダイ、フタスジタマガシラ、アデヤッコ、ロクセンヤッコ、etc…

11. 一時のやすらぎ（夕食、ランチ）

ランチはバイキング形式となっていて、これは助かる…

ダイビングの後って、結構お腹空くもので、バイキング＝食べ放題は私達のように燃費の悪い人にはもってこいだ。

フルーツにサラダ類、チキンにハムにパスタに食パン、スープにココアと…

パンに塗るものとして、バターにマーガリン、マーマレードにいちごジャム、はちみつ、ベジマイトと片っ端から持ってきては、たいらげた。

（ベジマイト：真っ黒で、しょっぱくて、異様な匂いがするジャムの用な物で、オージーではメジャーなものであるが、私は遠慮します。）

夕食は大皿に野菜炒め？とチキンの照焼き、ライスが乗った物を食べた。

食後にケーキとアイスクリームのデザートと、コーヒーであった。あまり美味しくなかった。

ナイトダイビングが終了して、やっとアルコール解禁である。

ガイドのトニーと私達３人＆カップル、それにイントラ候補生の日本人女の子で、打ち上げ？

ビール（$2.5）をカウンターバーで買い、日本から持ち込んだ柿の種、ケアンズからのスナック菓子をつまみに、がんがん飲みました。

食堂は12時いや11時（たぶん？）で閉店消灯し、その後はデツキに上がり、海風を浴びながら飲んだ。

←こっちは朝食です。バイキング形式はありがたい！

中央の黄色の物が先程のベジマイト

２日目の昼飯は、１本目が終わるとすぐにランチタイムである。

ランチはタコスであった。

とうもろこしの粉を使って焼き上げた、あのパリパリのタコスの皮？ にレタスやトマト、チーズにビーンズなどなどぶち込んで、がぶり！なかなかいけた。

それに○○スープに上がりにはココアで締めてと！

１本目と２本目の間は１時間弱しかなく、結構忙しかった。

12. ナイトダイビング

in　19:14　　ou　19:54　　潜水時間40分
最大深度13.2m　透明度12m　気温27℃　水面27℃　水底27℃　曇り

７時前にデッキに上がるともう真っ暗だった。
ライトなしでは、準備もできやしない...

すぐ後にスタッフがきて、明かりを灯し、ナイトダイビングの準備に取りかかった。
ナイトなんて、いつ以来なんだろう？
しばらく潜ってないし、とっても楽しみである。
が、今回もガイド役かと思うと、ちょいと不安なのにOWのカップルを引き連れてとなると不安感はちょいと増大である。
が、トニーが来てガイドしてくれるとの事で、ほっとした。
これで、思いっきり楽しめるぞー
ライトの無い人には、ちゃんと大型の水中ライトも準備してあった。もちろん無料である。

今日４度目のダイビングでポイントもほぼ同じ場所であるが、ナイトは凄かった。
魚達は散ってなく、いるいる...
次から次ぎえと現われる魚達に感動の連続、あっと言う間の40分間でした。

ナイト（サクソンリーフ）で見られた魚達
コブシメ多数 、ツマリテングダイ、カメ、ブダイ系多数、五色エビ（大)、ニセカンランハギ、ヤッコエイ、etc..　その他は昼間と同じような感じ。

13. 早朝Diving

in　06：37　　out　07：29　　潜水時間53分

最大深度20.1m　透明度15m　気温25℃ 水面27℃ 水底27℃　曇り

朝６時に起きて朝食前に早朝ダイブである。

ポイントは昨日に引き続きサクソンリーフである。

今回初のオプションで、確か$15であった。

内容的には、エンジン付きの十数名乗りのゴムボートでリーフの先の方まで連れて行ってくれるだけであるが（俗に言う半ボート）、ガイドも付いたし、まぁいいっかぁーと…

朝一で荒らされてない海を潜った訳であるが、魚の数は非常に少なく、期待外れに終わった。

14. ヘイスティングリーフでのDiving

１本目　　in　10：00　　out　10：42　潜水時間42分
　　最大深度12.5m　透明度７m　気温28℃　水面27℃　水底27℃　曇り
２本目　　in　12：27　　out　13：14　潜水時間47分
　　最大深度12.6m　透明度MAX ５m　気温28℃　水面27℃　水底27℃　曇り

しっかりたっぷりブリーフィングした後は、さあどうぞと言う感じで、昨日と同じく勝手に潜る事となる。いくらブリーフイングしたって、初めての海（ポイント）は少々緊張する。

だって私が今回もガイド役であるから…

他の乗客より早く入ろうと１番のりでエントリーしたものの、１人（誰でしょう）が、エントリーにもたつき水面で待つ事30分、結構疲れる。結局一番遅くなった。

ブリーフィングのとき、1.5m位の人なっこいナポレオンがいると聞かされ、１本目はとりあえずそれに会えればいいかなぁーと…　びしばし写真撮ってやれー と思ったが、そんな大きなナポレオンは見つからず、透明度は昨日よりはるかに悪い。

終わってみるとナポレオンくんは小さいのが２匹だけ…

入り組んだリーフの中に入っていくと、突然ホワイトチップシャークが現われこっちに向かってきた時はちょいとあせった。

リーフは結構入り組んでいて、サンゴは凄い。

枝サンゴにテーブルサンゴ、キャベツサンゴなどなど…

リーフ内の砂は、星の砂であるとブリーフィングの時に言われたが、見つけられなかった。

ここのポイントは、大きなシャコガイの多い事…

２本目（ラストダイブ）

イントラを取りに来てた日本人の女の子が、“一緒に潜りましょう”って言ってきたもんで、てっきりガイドしてくれるのかと思ったら、結局こっちがガイド役で…

海に入ると随分潮が流れてて、透明度は１本目と比べてもかなり悪い。

潜行ロープづたいに行かないとどんどん流される感じだしバディの姿も見えなくなる。

デッキの上で考えていたコースどりは着底と共にいきなり変更した。

結構な流れと最悪の透明度、それよりも私のコンパスは壊れかけなのか？まともに針が動いてくれない。

仕方なく１本目と同じリーフ沿いを行って帰ってくるだけとした。

それでも場所によってはリーフの縁が見えなくなるほどの透明度の悪さに、私は魚なんて見つける余裕は少なく、参りました。

おいおいこれがＧＢＲかよ！と何度ガイディ ングしながら思った事か…

さんざんなラストダイブであった。

ヘイスティングリーフで見られた魚達

ホワイトチップシャーク、ナポレオン、シャコガイ多数、その他はサクソンリーフと同じようである。

15. 下　船

２本目を潜る前には、帰りの船は既に来ていて、乗船する客の顔を追い求めたが美保ちゃんの姿はなかった。

潜り終わったら、ばたばたと片付け１時間もしないうちに下船となる。

やはり１泊２日は忙しすぎる、シャワーを浴びる余裕もなかった。

せめて中１日欲しい所だが、今回天候も、透明度もあまり良くなく、この場に悔いは残らなかった。

帰り際になってトニーは集金人に早変わりし、オプションのボート代$15と環境保護税 ＄４×２日分を支払った。

荷物はすべてスタッフが運んでくれ、体一つでスクーバルー号に乗り込んだ。

スクーバルー号はクリッパー号からゆっくりと離れていき、どんどん小さくなっていく。

トニーを始めスタッフは見えなくなるまで、手を振ってくれた。

こんな時は、何故か寂しさを感じる...

走り始めて少しすると、雨はどしゃ降り、波は高くボートは大揺れ。

私達は自分の荷物でテーブルを作り、早速打ち上げである。

この船にもちゃんとビール（$2.8）は積んであった。

残りの柿の種とキットカットをつまみに...

３本ほどビールを飲むとトイレがに行きたくなったが、トイレまでたどり着くのも一苦労であるほどの波だった。

皆少し疲れている表情で、会話はあまり進まず、雨はシートより吹き込みながらも、だらたらと飲み続けた。

どしゃ降りの雨も、ケアンズに着いた時には晴れ間を見せ、1泊2日のオーバナイトクルーズでのダイビングは無事終った。

16. ケアンズの夜その１

ホテルに帰ってきた。フロントでルームキーをもらったが何も言ってくれなかった。
なんだぁー美保ちゃんからの伝言は無いようだ。
シャワーを浴びその後ベットに横たわり、ガイドブックを見ながらたばこを一服する。
何かの物音にふっと目を覚ました、どうやら寝てしまったらしい...

よし街に出よう！ めしを食いに行こう!!
ホテルを出てにぎやかそうなエスプラネード（海岸通り）方向に行く。
地図を見るとマックを発見し、とりあえずウインドショッピング゛しながらここを目指した。
マックは日本とほとんど変わらない店の造りである。当たり前かぁー？ ...
ここでは30セントコーンと言う30セントのソフトクリームが食べたかった、ついでにチーズバーガー（$？）も一緒に買った。
道路反対側の海沿いのベンチに座り食べることとする。
まずソフトクリーム、30セントだ゛からあまり期待はしていなかったものの、ちゃんとしたサイズである。チーズバーガーも日本のそれより少々大きいと思う、味も同じよう。
となりの芦谷はオージーバーガー？ポテトセット？なる物を買ってきた。オージーバーガーは間に赤い輪切りの大根の漬物？がサンドしてある。この赤いの、船の中でもサラダなんかによくのっていたが、あんまり美味しくない！ 芦谷いわく、“やっぱこれだと思ったけれど、ここにしかなさそうだしたのんでみた”とか...
そう言えばセブ島のマックにはスパゲティがあった、こちらはまあまあ（余談）
セットはドリンクＬとポテトのＬとＳがつくものである。
私も腹が減っているとハンバーガーの２つや３つ食べてしまうが、ポテト２つと言う発想はまず起きない、流石？オージー ...
しかしやっぱハンバーガーはモスが一番でしょー

帰りの船の中でイントラ候補生の女の子が、
“今晩オープンウォーター取った女の子達と打ち上げやるんだけれども、よかったら来てください！”の言葉を思い出し、再び歩き出す。
途中ＯＫギフト（大橋巨泉の店）の前では、“やきぃにくーぅ ヤキィニクゥ ... おいしぃぃょうーやぁすっいよぅー”とどこか聞き覚えのある言い回し... 見ると韓国人、そういゃあバリでそんな言い方よく聞いた。“うちで食べた後は２階の演劇$10だよ...”ケアンズにもやっぱそうゆう所ってあるんだー 思わず気持ちがそっちに傾いたが 先に進む。
店の場所が分からずやっとの思いで探し当てた×××××にたどりつく。
その店はカラオケandプールバーであった。入り口から中を覗くと一番奥のほうにそれらしき人達を発見したものの１時間後れで盛り上がっている場にどうも入って行けずそこを後にした。

よーし、メインディッシュを食べに行こう！
と、みやげもの屋さんには余り目もくれず、目的の『ティムズ サーフ アンド ターフ』に向かう。ここは、“93%の人が全部食べきれない!!”と言う売り文句で有名なところ。

マックを食べた公園？にもここの看板があった。
港の横に立つ建物の２階で船と海を見ながらの食事である。
夜だったため海はよく見えなかったが、真ん丸の月と夜空を見ながらの食事となる。
オリオン座は大きくてとてもきれいであった。南十字星はこの時期見えないらしい。
ここでは、ふつう二人で一人前とか、三人で二人前位たのむのらしい。
メニューを見てもどんなものが出てくるのかわからずとりあえず私達は一人一人前（$10 ～ 15位）＋生牡蠣１ダース（$７）を注文と言うか、自分でオーダー表に記入してレジでお金を先に払ってくる。
ドリンク類はフロアーのカウンターバーで買うシステム。
ビール（$３）を数本飲んでしばし待っていると、来ました。
なんだこりゃーあ！見るからに食えそうにない。
ガイドさんがバスの中で言っていた600ｇのステーキとは、これだったのかもしれない？
がんばって食ったもののやはり全然食べ切れない。 サラダなんてほとんど手を付けない状態。
味の方はまあまあでしたが、肉はカットがでかいだけに場所によっては硬いところもあった。
カキはうまかった。 シーフード類もGoodでした。

17. キュラダ観光：基礎知識

今回の旅行目的はもちろんダイビングであるが、折角オーストラリアまで行くのだから観光もしたい！でも海も捨て難いし…　この部分が今回の旅行で最後まで悩み考えたところで、最終日は観光かダイビングかのどちらかになっていた。

結局２日間、天気も海の状態もあまり思わしくなかったのでダイビングは諦め観光となった。

オーストラリアの陸地を楽しむべくキュラダに行く事にした。

まずは、基礎知識

キュラダ：ケアンズの北西30ｋｍ程の熱帯雨林の中にある高原で、昔は鉱山の町として栄えたらしい。

今ではBIRDWORLD（鳥園）BUTTERFLY SANCTUARY（蝶園）BIRD AND REPTILES（鳥と爬虫類）NATURE PARK（自然公園）HUMMR SAFARI（４駆サファリツアー)、オパールハウスやアボリジニの民芸品 、レストランやアイスクリームショップ 等観光化された町である。

水・木・金・日にはマーケットも開かれ、そこでは民芸品やおみやげなどが売られている。

観光客は通常ここに行くにはキュラダ鉄道、スカイレールを使用し、この２つの乗り物も観光の目玉となっている。

キュラダ鉄道：すず鉱夫たちの物資供給のために1882年より10年もの歳月をかけて熱帯雨林に流れるバロン川の渓谷沿いに作られた鉄道で100年以上もの歴史をもつ 。

レトロな車窓よりこのバロン渓谷の壮大な風景を見ながら１時間40分ゆっくりと味わうことのできる観光列車である。午前中ケアンズよりキュラダに２本、午後キュラダよりケアンズに２本運行されいてる。

スカイレール：キュラダ、スミスフィールド間を世界最長7.5㎞の４人乗りゴンドラで結び、世界遺産にも登録されている熱帯雨林を３０分間空中より眺める事ができる。

途中２ヶ所の降場（駅）があり、熱帯雨林を散策することもできる。

18. キュラダ鉄道に乗る

７時半にホテルを出てTAXIにてケアンズ駅へと向かう。

駅構内（ホーム横）の売店にてホットドックにコーラで軽く朝食を食べながらチケット売り場が８時に開くのを待つ。（ホームに入るのに改札なんてもんはなかった。）

チケット売り場が開き、キュラダまでの片道切符を買おうとしたら、売り場のおじさんは、ごしゃごしゃと英語で訳わからないことを言っている。

私達が英語が分からないと知ると、コピーした地図を出しまた説明する。

どうやら、ケアンズ→キュラダ／列車、キュラダ→スミスフィールド/スカイレール、スミスフィールド→ケアンズ/バスをセット（$59）で売るらしく、そうさせられた。

キュラダへは旅行会社のオプショナルツアーがたくさんあり、動物園やランチがセットになっていて、その内容により$100位からあり通常旅行者はそれを利用するが、私達は個人的に行ってみたかった。

ケアンズ駅入口

ホームにてしばらく待っていると、レトロチックばっちりの風格を持った16両編成位の結構長い列車が入ってきた。 流石100年の趣といったところでしょうか。

私達は10号車で席はすべて指定である。

車内はゆったりとした４人１列の席が向かい合わせにあり、８人がけのボックスシートと言ったところで片側が通路となっている。 私達の前には外人さんが１人もちろん女性。

それを見て私は頭の中で、後でコミュニケーションしようと。

今日は雲は多いものの今までから思うとなかなかの晴天である。

列車はケアンズの街を流れ出し、車窓は街から郊外、そして森へと変化していった。

変化していく車窓を眺めつつ、頭の中では英単語をならべながら何話そう（何が話せる）と、順番まで考えていた。

そこにビデオカメラを持ったおやじ（外人）がうちらのボックスに入り込んできてカメラをまわし始めた。窓から乗り出して撮影したかと思うと勝手に座り込み、人の顔の前で右向いたり左側を撮影したり、立ったり座ったり… お陰でこっちはいいとこなんも見れず、もう全然雰囲気ぶちこわし!!

そのおやじ結局１時間くらい居座って撮るだけとって去っていった。

やっと居なくなって落ち着き、何か話そうと思ったらキュラダ駅に到着してしまった。

あのおやじの ば・か・や・ろ・うー！！！！

19. キュラダの町で

キュラダ駅より町中まで無料のシャトルバスが出ていた。それに乗ると、ここは○○○です、これは×××ですと町中を一周説明して町外れで降ろしてくれた。５分とかからない。（歩っても数分でした。）

とってもちっちゃな観光ONLYの町中だと感じた。。

キュラダの目的の１つにコアラとカンガルーに会いに来たわけで、それがいるナチュラルパークを探しつつ町を歩いた。

途中どこかのＨＰでみたアイスクリームやさんを見つけマンゴアイス（$2.5）を買った。

一口食べておじさんに Good taist ！と言うと

“超～うまぃょー！”の返事にびっくり!!

ナチュラルパークに行くために町中の人に尋ねると、蝶園の前からバスが出るからそこに行けと言われ、そこで待っていると町中のショップでチケットを買わないとだめだと言われ、町中に戻ってチケットのことを聞くと、蝶園の前だと…　どっちが正しんだぁ！

結局また蝶園の前に戻り、バスが来るのを待って運転手に“ナチュラルパークに行きたいがチケットが無いのだけれど”と尋ねると、何やら無線で連絡して“ＯＫこれに乗れ！”

その大型バスは高校生ぽい人ばかり外人の修学旅行のバス…？

私達はかなり浮いていた、そしてそこに着くまでの十数分無口になった。

20. キュラダ観光：ナチュラルパーク

やっとの思いでナチュラルパークに着くことができた。

さきほどのバスの運転手がチケット売り場まで案内してくれた。

私達はコアラが見られると漠然的にそこを目指したが、見学する場所が３コース（ARMY DUCK、PAMAGIRRI、WILDLIFE PARK）あり、別々またはセット料金となっていた。どれにするかと聞かれても良く分からず、それより“２時半にスカイレールに乗らなくてはいけないのだがどれならＯＫかと？”これとこれみたいにパンフレットを指差しされて、その料金を払った。

KOALA & WILDLIFE PARK（$８）

チケット売り場の右横にあるドアを入ると、いきなり！コアラがユーカリの木にたかって寝ていた、３～４匹…　動かない！　起きない!!　目を覚ませ!!!　だめだぁ～こりゃぁ～と思いながらも２メートル先にいる初コアラはとてもかわゆく、なまけものに見えた。

次はヘビおり？その次はカエルの水槽と続いたが何の感動も無く、

その次に…　ウオンバットと書いてある、夜行性動物のためか、多分土の穴の中にいる？のだろーけれど姿はない！

ここから先は野外である。

いきなり２メートル位のクロコダイルがいるのだが、これまたぴくりとも動かない。

で次は50㎝位のアリゲータが十数頭いる。大きなクロコダイルの後にやはり感動は今一つ…　顔つきが違うくらい。

次はまたまたコアラちゃん 係員が眠そうなコアラを木から離しダッコして持ってきてくれた。

で触らせてもらえた。なんとも言えずすんごくやわらかな感触であった。

ここではダッコできなかったけれど、コアラの横で ハイ ポーズ！ これなら無料（ダッコしての写真撮影は時間が決まっていた、たしか$８なお今はオーストラリアではケアンズのここともう1ヶ所しか、ダッコはできないらしい。）

最後は芝生の庭を通って建物に戻るのだが、途中カンガルー、ワラビーが放し飼いになっていてやはり触ることもできた。私達が見たのは子供なのか？割と小さく、感触はコアラと比べると少々硬く感じられた。

ARMY DUCK（$11.5）

アーミーダックと名づけられたこのコースは、第二次世界大戦で使用された６輪駆動の水陸両用車（マイクロバス位）を改造して20名程乗れる様に椅子を取り付けた物で、熱帯雨林を進みながら途中20ヶ所ほど車を止めて、運転手兼ガイド（クロコダイルダンディのポールホーガンにくりそつ！）がおもしろ楽しくいろいな生物、植物などの説明をしてくれるのだか、もちろん英語... 私達には日本語の説明パンフレットを渡され、それを見ながらのツアーであった。途中湖の中を進んだりと、まあまあでした。

ここでも、英語がわかれば もっともっと楽しいのにーと思った。

PAMAGIRRI（$15.5　３つセットで$29）

今回ここは時間の都合上見れなかったが、パンフレットを見ると、先住民族アボリジニの暮らしぶりが再現されていたり、アボリジニダンスショーを見学したり、ブーメランの投げ方を教わったりできるようである。

あっーと言う間に２コースを見て時間となり、ナチュラルパークを後にして、キュラダの町 まで、ここに来る時に乗った大型バスで送ってもらう（往復$４）。帰りは乗客５名、なんとなくリッチ...

そこでふと気が付いたのだが、椅子のヘッドレストカバー（頭のあたる所）、日本では白い綿製のカバーか和紙でできたものがほとんどだと思うが、このバスはなんとコアラの革であった。

再び出会えたソフトな感触に思わず盗んで帰ろうかと思ってしまった。

21. キュラダ観光：バンジージャンプ

キュラダの町に戻りマーケットを覗いてみた。

アボリジニの自画像や風景画、ブーメラン、楽器、オパールを使用したネックレス指輪などの装飾品や置物、革製品などなどたーくさんありましたが、ふら～っと見ただけで余り興味はわかなかった。

その奥に木々の間からバンジーが見えた、これを見るまで忘れてました。

オーストラリアの目的その２ “加藤君バンジーチャレンジ！”

これは、前回バリに行った時に私と芦谷はチャレンジしたのであるが、加藤君は45mの高さにびびりとうとうチャレンジできなかった。そこで、次回どこかに行った時は飛ぶんだぞ！と半分強引に約束した？ものである。それが目の前に見えている。

マーケットを通り抜けるとありました。

あれっ！でも違う… ここにあったのは、飛び降りるタイプのじゃあなくて、上から降りているひもを背中につけてウルトラマンのように飛ぶ？（振り子タイプ）であった。
（後で調べたら、飛ぶタイプのやつはケアンズ郊外にあるらしい。）

ちょいと違うけど折角だからこれでも許すからやっちゃおー…

なんだったら俺も一緒に飛んであげるから… 芦谷も“俺もいいよっ！!”

ここのは、一度に３人までできるものであった。

ちなみに値段は１人で飛ぶと$39、２人なら一人当たり$30、３人なら$20だったと思う。

結局加藤君はびびって、今にも死にそうな位、顔面蒼白になり断念。

また次回持ち越しである。

来年２月がまたひとつ楽しみが増えました。

でもセブってバンジーなかったような気がする… こうなったら造るしかない！

これを読んでるあなた、知り合いにバンジー屋さんいませんか？

22. キュラダ観光：スカイレール

予定時間の２時半となりスカイレール：キュラダ駅よりゴンドラに乗ることとする。

若者？の私達にとって、今ではめずらしくもない４人乗りゴンドラであり、その辺のスキー場にある物となんら変わりない。スキー場と違うのは、待っている人がいないのと、ゴンドラがやたらきれいで新しく思えた。（後で調べたら95年完成とか）

これより約30分間（途中下車しなければ）、全長7.5㎞世界最長と呼ばれるゴンドラに乗って、世界遺産にも登録されている、世界で最も美しい熱帯雨林を上空より眺めることになる。
（世界が３つも出てきてしまって書いてる俺も分からなくなった！ そのうえ国立公園にもなっていて… なんて書くともっと分からない？）

この熱帯雨林（レインフォレスト）とは１億２千万年前より姿を変えず現在まで残っている森林の事で、その中には、絶滅の危機に瀕している鳥や動物達も多くいると言われる。

ゴンドラに乗ってすぐに雨林の上空にさしかかった。

その高さにバンジーを思い出しびびる人が若干一名…

雨林の間に流れるバロン川が続いている。その雄大でゆったりとした川 の流れをしばし見ていると、1つ目のバロンフォールズ駅に到着した。

ひとまずゴンドラを降りて、ちょっと見学。

遊歩道を歩いて行くと、バロンの川、渓谷、滝、の見られる展望台がところどころ作られていて、それらを見て一周した。落差280mのバロン滝は水が大変少なく、残念！であった。

駅に戻るとそこには、展示館の様な物もあり、館内には、雨林の生い立ちや、昆虫の標本などがコンピュータ等を使用したりして展示見学できた。

再びゴンドラに乗り上空より見学する。

50mに達する木々を眺めていると、どこからともなく、鳥達のさえずりが聞こえてくる… 大きな木々の間にもヤシやシダ類？の植物が無数に育ち覆われていて、地表は見えない。目を凝らして動物達を探したが、白っぽい鳥一羽しか見つけられなかった。

２つ目のレッドピーク駅に着いた。
ここでは降りない訳にはいかなかった。
ゴンドラはここで折り返しとなり、先にもうひとつのゴンドラがあった。
“なにこれ？ 7.5㎞なんて嘘じゃん！” ここまで、ほぼ2 ／ 3位だと思う。
だとするとここまで５㎞位？　その位のゴンドラって日本にだってありそうな気がする…

話は戻って、この駅からは、熱帯雨林を無料ガイドが案内してくれる、訳が…
時間がちょっと過ぎていて、地上からの見学は、自分達だけでの散策となった。
ある程度の木々はナチュラルパークでも見ていたので、すかすか歩くと、前方にガイドと客を発見し、ガイドの説明を聞いてみたものの全然分からない！
だって英語なんだもん!!なもんで、その横を通過して再びすかすか歩くとあっという間に終わってしまった。
駅に戻りいんちき？な、もう一つゴンドラに乗り込み、終点のスミスフィールド：カラボニカ駅に向かう。

しばしまた上空散歩である。
熱帯雨林は突然開け、前方には真っ青な海が見えて来た。
その手前には緑の平野が広がっている。
平野の先にはケアンズ？の町も見えた。
ゴンドラは一気に下降し駅に着いた。
この駅のとなりには、アボリジニ文化センターと言うものがあり、パンフレットを見る限りでは、ナチュラルパークのPAMAGIRRIと同じ様なもであり、ちょいと見てみたかったが、時間の都合上寄れなかった。

この後は、バスにてホテルまで送ってもらった。

23. ケアンズの夜その２

キュラダよりホテルに着いた。

しばし休息を取りたいところだかそこは短期旅行、休む間もなく中庭にあるプールに入る。

時間はすでに５時近く、それにくもり空からこぼれる太陽の光はホテルの建物の影となり日も当たらず寒い！ こんな状態なのにどーしてプールに入らなきゃぁならないの？と思いつつも、扇形したプールの角の階段から徐々に水に浸かる。プールの中ほどまで歩いて行くと足は立たない程深い！

プールサイドにはＭＡＸ1.2mと表示してあるのにＭＡＸ1 ～ 2mの間違えじゃあないの... ？でもそうだとしたらアバウトすぎない？

寒くてそう何分もプールに入っていられない。

ジャグジーに入ったらやっぱり寒い！ここのはもの凄い！ジャグジー特有の足元からのあのぼこぼこの泡がやけに勢いよく、時には顔を覆いつくす程の威力は、まるで火山が爆発したかの様でとってもワイルド!!

おみやげを買うために街に出る事となった。

私達の旅行では決まっておみやげは、まずスーパーマーケットである。

値段も安いし品数豊富、めずらしいものやおもしろい物も見つけられる。

今回はお土産はまだ何も買ってないし、今日中に買ってバックに入れてしまわないと明日が大変だ。

腹も減ってきた事だし、時間もない。ケアンズには数件のスーパーがあるらしいが、ここは庶民的なウールワースにタクシーでかけっけた。

ガラスのドアを開けて中に入るとまず赤黄色緑色の南国風のカラフルなフルーツ に野菜がどかーんと並んでいる。次は肉だ、でっかいブロック肉が多く、ステーキは１枚が日本の３倍もあろうか、それが３枚で$５くらいだったか。 なのにビーフジャーキーは一袋$５位からと、日本より高い様な気がした。 文具から洋服、家電品、日曜大工の材料まで、片隅にちゃんとオーストラリア土産コーナーもあって、コアラのぬいぐるみやカンガルーの玉袋、マカダミアンナッツ等一般的なものはなんでもあった。

一通り見た後、結局ガイドさんがおいしいと言っていたＴｉｍＴａｍというチョコのお菓子を買った。

これはビスケットをチョコで包んだようなお菓子でケアンズではとても有名らしい？

オージー女性はこのお菓子の食べ過ぎで太るとか？

これを20個ほどと後は明日の朝食のパンやら何やら買った。

レジで支払いをすると釣り銭にいろんな小銭がもらえて、これがまたおもしろい

こういう所にでも行かないと観光客って結構小銭って見られないものです。

オーストラリアでは最低通貨が５セントコインだそうで、日本のように１円というコインはなく、端数は四捨五入らしい...

両手に袋をぶらさげて身動きできず、その上雨も降ったきた。

タクシーで一度ホテルに戻ることにした。

とにかく腹がへった。

どこに行こう、何食べようとさんざん考えたあげく、私の独断と偏見でアカシアコートホテルのチァーリーズレストランに決めた。

ここは$19.5でエビ、カニ、生牡蠣、中華に洋食系メニュー、デザート類コーヒー等の食べ放題の店である。

要予約とどこかに書いてあり電話したらＯＫとのことで、行ってみた。

入り口で支払を済ませテーブルに案内されるのを待っていると、おばさんのウエイトレスが来て案内しようとした時、“No! ×××～×××... ～×××next time”

何を言ってんだか良く分からなかったが、どうやら私の格好がだめならしい..

確かにＴシャツに半ズボンそれと一番悪いのがビーサンらしい... 次回からは.. で、テーブルに通された。

次回なんかないよ！

確かに食べてる人たちは襟付きのシャツにスラックス姿が多く、流石にサンダルはいなかった。

何はともあれ、席に着いたらこっちのもんだ。

最初少しずつ全種類？の食べ物をテーブルにならべ３人でほおばる。中華系のミーゴレン（やきそば）ナシゴレン（チャーハン）なんて最高！ ５月に行ったバリ島の味の再来に感動である...。

次からはメイン？のエビカニ生牡蠣のてんこ盛を次から次へとテーブルに持ち込み、一人何十個ずつ（ちょっとオーバーかな）食べたことか...

その後にケーキ食ってっエップレッソなんか飲んじゃって、おしゃれー？おかげでビール（$３）ははかどらずに、充分元はとらせて頂きました。

大満足でした。

ホテルに戻ると満腹と疲れにて、すぐにぐっすり... ４日目は終わった。

24. 免税店でお買い物？

目覚めてシャワーを浴びた。

昨日スーパーで買ったパンにカマンベールチーズ、バナナそれにコーヒーと軽い朝食をとった。

それから帰り支度をすませるとヘビー級のバックは超ヘビー級となり、ぱんぱんだ。

ロビーに降りると他のツアー客がわんさかといる、この人達はすべてＨＩＳのツアー客だ。

もちろんみんな日本人、こんなにこのホテルにいたんだなぁ～と思いつつ、うちらのツアー会社は３人きり、旅行会社の規模の違いを感じた。

９時に迎えがきた。ハイエースロングに荷物のトレーラー付き、空港の時と同じスタイルだ。

ドライバーは“これから10時半まで免税店にショッピングに行きますと...”そう言えば、ホテルに着いたとき添乗員がそんなこと言っていた事を思い出しながらも、格安ツアーに付きもんだから仕方ない。 免税店になんか用ないし、空港に行けばまた免税店あるしー ... 表から入って裏から出てしまえばいい。

免税店の前で

余った時間街をふらっくことにした。 どうせだから有り金全部使っちゃおうと特に買うものがあるでもなく、片っ端からおみやげ店を見て回る。

一件の店でカンガルー革の敷物（$58）があった。

あまり大きなやつではなかったがしっぽの先までちゃんと付いている。

店員が“どうですか、いいでしょう10% Discountするよ！”と...

買えない金額でもなく10%引いてくれると言うので、その気になってどれがよいかなぁ～と選んでるとふと思った。

これって日本にもちこめるの？ 店員に“Japan OK?”と聞くと“No...”と残念そうな顔で言われた、こっちが残念である。

今思うと俺って何人に見られていたのだろうか？

結局めぼしい物も特になかったが、お金を余らせてもしょうがないと、カンガルーのジャーキーなどを買った。袋にはNew Teriyaki Flavourとかシールが張ってあってひとつも安くはない。これって、絶対日本人を意識して作ったのだと思う。でも俺はまんまとそれにはまってる？ ....

25. ケアンズ空港にて

集合時間となり空港まで送ってもらう。

ドライバーはチエックインカウンターで受け付けしてくれ、出国ゲート入り口まで案内してくれた。えらい！それに内心助かったーって気分。英語しゃべ゛れないし、３人して超ヘビー級の荷物、重量オーバーだなんて言われたらどーしよーかと思ってたのである。

出国ゲートを通過すると案の定、広い免税店が客を待ちわびている。

出発まであと１時間半もある。とりあえず店内に入って見た。

客のほとんどが日本人で、もうさんざん買ったんだろーにと冷たい視線でその人達を見ていたが、そこはやっぱ俺も日本人…　店内を歩くうちに折角だから自分のコロンでも買おうかぁ～と…

もうドルはコーヒーとサンドイッチを食べるために残しておいた$10位しかない、カードで買おうとしたら円ＯＫだった。円換算$１＝￥70.6とレートが良い。

加藤君は和風ファーストフード？で何やら食べていた。

聞くとビーフラーメンと言う、それをテーブルの反対側で見てるととても美味そうで、一口もらったらまあまあいけた。

俺もこれにしよーと値段を見ると$12.5

“げっ！金が足らない!!でも食べたい!!!”

そしてもう一人金のない芦谷と半分ずつ出し合い一杯のシーフード味噌ラーメンを買った。

これがまずいのなんのって、加藤君のそれとは麺は違うし、味噌汁の倍は薄いであろうスープ…

具にごまかされたぁ～サンドイッチにしとくべきだった…

26. 機内にて

帰りの私達の席は、62列目と、どちらかと言うと後ろの方の席であった。

やっぱ格安だからしかたがないかぁ～と自分に言い聞かせつつも、チェックインカウンターで“出来るだけ前の方の席にして下さい。”と、頼むのを忘れたと少々後悔する。でもその時はバックの重量が気になってそれどころではなかったんだ！と まあ羽の上でなかったたけ良しとよう。

窓の外の景色を眺めながら“これでオーストラリアともお別れだぁー”と一人余韻に浸っていた。

機内では、いつもながらのシートベルトの脱着、救命胴衣の身に付け方が始まる。

私の席から見える範囲では、すべてスチュワートばかりで、スチュワーデスはいなかった。

こんなの初めてなのと珍しくも思えた。けど､華やかさに欠けると思う､やはりかわいいスチュワーデス一人位乗務させて欲しいものだと...

12時40分ほぼ定刻どおり、QF69便はケアンズ空港を飛び立った。

しばらくして、前方ではすでに食事が配られ始めていた。

ここまで来るには当分先だ（やはり席は前がいいなぁ～）と感じ。

さてと、音楽でも聴こうと肘掛けのところにある端子にヘッドホン端子を差したものの音がでない！おかしいなぁ～とボリュームを大きくしたりチャンネルをあっちこっち回したが一向に音は聞こえてこない。隣の芦谷も加藤君も聞こえない...

この列は、はずれだ！

仕方なく音楽は諦め、シートポケットに入っている本に目を通したが行きの機内で見たものと同じである。だよねー ...

ようやく私達の席にもスチュワートが来た。チキンカレーと○.○.○.○.○.でチキンカレーを選ぶ、飲み物はとりあえず最初はシャンパンでしょうー

スチュワートに音が出ないと伝えると、“すみません、この辺みんな出ないみたいで...”

カンタスさんしっかりしてくれよ！同じ路線に競合相手がいないからって、手抜きするなよ！メンテナンスしてくれよ！！と、言ってやりたかった。 食事しながらシャンバン飲んで、その後はビールを数本飲んだものの、することもなく、いつしか寝てしまった。

目がさめ切らないうちに、今度は夕食？（軽食）が出てビールを飲みながらまた食べるものの、あまり腹は減ってなく、クッキーとキットカットはみやげとなった。

ほろ酔い気分でまたもや一眠り...

寝てたから良く分からないけれど､帰りの便では､靴下もアイマスクも歯ブラシも何ももらえなかった。

気が付くとすでに着陸態勢に入っていた。

27. 成田に着く

成田空港に着陸した。

良く分からないけれど、着陸してから空港サテライトターミナルに着くまでの間がやたら長い。感覚的に10分位走っている様な気がした。

飛行機から降りてしばらく歩きシャトルで第２ターミナル本館に着くと、入国審査だ。

順番を待ちながら審査を見ていると、審査官は何の質問せず無口のままパスポートを見て、入国スタンプを押している。ほとんど流れ作業のごとく押す。私の番が来た、審査官は日本人だし緊張することも無く、やはり何を聞かれるでもなくすんなりと通過する。

でも私のバックはコンベアーに流れてくるのがいつも遅い。

ここでいつも待たされるので、結局次の税関検査は最後の方になってしまう。

税関検査場では、もちろん申告なしの列に並ぶわけだが、バックが大きいからか？

検査員にいつも“申告する物はありますか？バックの中は何ですか？”と聞かれる。

“ありません！ダイビングの荷物です。”と言うと、台の上に荷物を載せるでもなく、すんなり通過してしまう。検査員ってダイバーが貧乏旅行って分かってるのかなぁ～と...

到着ロビーを横切り真っ直ぐ出口に向かう。

外は真っ暗...　当たり前かぁもう８時だー

一服しながら、駐車場の迎えのバスを待つ。

帰って来ちゃったぁ～ ...　日本はやはり寒いやぁ～ ...　疲れたぁ～ ...　明日から仕事が大変だぁ～ ...　３人は各々に疲れはてたかのような声で言う。

でもまだここで、疲れきる訳にはいかない、私にはまだ３時間の運転が残っている。

国道を走り始めると、[ＷＥＬＣＯＭＥ　ＪＡＰＡＮ！] の電光看板の文字が目に飛び込んでくる。それを見るたびに、本当に帰ってきちゃったんだと改めて実感し、なんかほっとする。次の瞬間よーしもう少しだぁー帰るぞー！!と気合を入れ家路へ向かう。

28. 旅の終わりに

佐野に着いたら、旅の終わりは夕食である。

私達は決まって吉野屋の牛どんである。

海外でいくら美味しい物を食べたって日本に帰ってくると、ご飯と味噌汁が恋しい物でして、俺も日本人なんだなぁ～と。

となると牛丼でしょー、私は日本の味って気がする...

夜中でも開いてるしー早くて安くてうまい！

席に着くなり、

“特盛（650円）味噌汁（50円）卵ー！（50円）”値段はもういいってかぁー

最初に卵が来る、醤油を少なめに入れかき混ぜて待っていると次に特盛がくる。紅生姜をたっぷり、その周りに七味唐辛子をこれまたたっぷりトッピング？（吉牛の七味はからくない！）そして味噌汁が到着する。

ふぅーふぅーいいながら熱い味噌汁をすすると、味噌の香りと風味が心を満たし気持ちが和らいでゆく...

所詮インスタントじゃんなんて言わないで！暖め直しの煮詰まったものより、断然美味しい...。インスタントだって馬鹿にはできなと私は思う。

そして特盛をがっついて食べる...　肉は多めにご飯とともに口にほおばる。

ご飯が半分くらいになったところで、先ほどの卵（醤油少なめの卵はご飯に味（汁）が付いてるため）を流し込んだら、ラストスパート。けっして茶碗の中で卵を混ぜたりせずに食べる。（見た目が気持ち悪い！）最後に残りの味噌汁をひとすすり。

イメージ的には永谷園のコマーシャルののり、でも俺の方が先だょ。

店に入ってから出るまで10分とかからない。

旅は終わった...　おしまい！

29. おわりに

旅行から帰った次の日だったか仕事中に携帯がなり［ 通知不可能 ］の文字が...

美保ちゃんからである。（海外から携帯にTELするとこの表示になる）声を聞いたとたんに、生きてたぁーよかったぁー!!と思った。

話を聞くと、私達がケアンズに着く前々日バンコクよりシドニーに着き、次の日ケアンズ入りするはずが、空席がない... ロビーにてキャンセル待ち10時間... 一時間おきに飛んでる飛行機の席が取れない。

その間に、ケアンズに予約したホテルに電話して、遅れると伝えると、予約はキャンセルされ、私達のホテルに電話を入れると番号が違っていたらしい。ダイビングを予約した旅行会社に電話すると、当日キャンセルなので全額払ってもらうと言われ...

同じ時、母親がシドニーに旅行で来ていて、会おうとして空港で待っていたが、違うゲートにて母親の乗ったバスは出てしまい、タクシーにて追いかけたたものの数分しか会えず... １人シドニーにてさまよっていたらしい...

私達とダイビングを共にした後も、５日間位滞在するわけが、嫌なことだらけのオーストラリアを早々と切り上げバンコクに帰った...。

なんか凄い、折角の旅行が... ふんだりけったりとはこう言うことを言うんだと...

今度はちゃんと行くからまた誘ってください！と申し訳なさそうに...

うん、今度は会おう!!と電話を切った。

今回の旅行は、美保ちゃんが来れないと言うアクシデントや、今一つの天気で、本当のグレートバリアリーフを見れなかった気がするが それなりに楽しめたので良しとしようと思う。

しかし、

いつかまた本当のグレートバリアリーフを見に行きたいと思います。

自分でこれを書いてる時、誤字脱字はないかと何度も読み返すわけで、やはり、できの良くない小学生が、一生懸命書いた日記の様になってしまった。でもその、できの良くない小学生が、大人となり書いた物ですから、この程度で仕方ないと笑って済ませて下さい。 しかし年末年始のこの忙しい時期に他はさて置きこの事に１日数時間40日以上もかけてがんばった自分に拍手を送りたい。

また、これとは別にＧＢＲツアーレポートビデオ版（企画制作編集：加藤）も完成しました。何かの機会がありましたら、ご覧頂けるかと思います。

一応これで 公約は実行 した事としよう。

Informationにも書いてあるが、来年２月にはVermilionメンバー＋αでセブに行く予定であるが、帰ってきたらレポート書きますなんて言わない事にしよう...。

こんな私たちのツアー内容でも参加してみたい方は是非ともメール下さい。

男女問わず歓迎しますし、語学堪能の方ならなおGOODです。

最後まで読んで下さって有り難うございました。